

Nanavi Paper

長門市観光コンベンション協会報「ななびペーパー」



観光地域づくりを考えよう！

長門市観光コンベンション協会の協会報「Nanavi Paper」。今号は、6月7日（金）に行われた定時総会ならびに市内各エリアの事業者によるパネルディスカッション「地域住民も含めた長門市全体としての観光地域づくりはどうあるべきか？」を振り返ります。あわせて、今年度の当協会事務局の体制をご紹介します。





令和6年度定時総会を開催

6月7日(金)、湯本観光ホテル西京にて、令和6年度定時総会が行われました。

総会では前年度の事業と決算の報告が行われた後、今年度の事業計画と予算が示され、いずれも承認されました。



「変わりつつある今、挑戦を」
大谷会長あいさつ

昨年の観光客数は約201万人、宿泊客数は約38万人で微増でした。昨年も市内各地でさまざまな動きがあり、これからホテルの建設が計画されていたり、温泉地で地域一体となった取組が進められたりと、長門市は今、本当に変わりつつあります。今年1月には、ニューヨーク・タイムズ紙による「2024年に行くべき52カ所」で山口市が選定され、周辺地域においても、インバウンドの好影響がもたらされるのではないかと期待をしているところです。

今年度の方針は、昨年度に続いて「変革と挑戦」です。コロナ禍による大きな変化や人手不足、生産性向上の必要性、デジタル化への対応、賃上げ問題など、観光業界が直面する課題も多い状況ではありますが、一つ一つ挑戦をしていきます。

「山口県の観光のハブ拠点に」

江原市長あいさつ

長門市では、昨年の5月以降、インバウンドを含め、観光客が戻ってきているように感じています。

仙崎地区では、道の駅センザキッチンが雑誌の特集で全国的に高い評価を受けたほか、宿泊特化型のホテル建設が計画され、飲食店やみず通りの誘客にも大いに期待をしています。長門湯本温泉は観光地ランキングで躍進し、俵山温泉は湯治文化の再興に向けた取組が動き出しました。伊上地区では新しいリゾート施設がオープンし、アウトドアリゾートの拠点化を目指しています。

今後は、長門市を山口県の観光のハブ拠点とすることを目標に掲げ、青海島や黄波戸地区なども含めた、各エリアの民間事業者の動きを支援しながら、5年後、10年後の長門市の観光を築いていきます。



パネルディスカッション

総会後には、市内4エリアの事業者を中心に「地域住民も含めた長門市全体としての観光地域づくりはどうあるべきか？」をテーマとしたパネルディスカッションを実施。武内専務がファシリテーターを務め、まずは各エリアの特色ある取組を共有し、続いて当協会の収集した「長門市の観光に関する住民満足度調査」の結果をもとに、意見交換を行いました。



油谷エリア
岡藤 明史 さん

油谷湾温泉
ホテル楊貴館



仙崎エリア
福永 篤史 さん

仙崎通り町
協議会



俵山エリア
井上 芽衣 さん

たわらやまの
旅と未来会議



湯本エリア
木村 隼斗 さん

長門湯本温泉
まち株式会社



長門市役所
阿座上 千恵 さん

長門市観光政策課
観光振興班



長門市役所
佐伯 和恵 さん

長門市観光政策課
観光振興班

油谷・仙崎・俵山・湯本エリア 新しい動きとこれからの展開

前半は、各エリアのパネリストが、自分たちのプロジェクトの概要、コンセプト、ターゲット層、プロモーション戦略などを発表しました。

油谷エリアでは、20〜40代に向けて非日常な体験を提供する自然と調和したリラクゼーションリゾート「天風」が開業。仙崎エリアでは、空き家を活用したレンタルスペースの整備や伝統行事の継承、イベントの開催などを通して、関係人口の創出と経済の循環を目指しています。

俵山エリアでは、温泉街全体を一つの旅館と見なす「まちごと旅館」構想のもと、地域住民との交流や伝統文化の体験などを通じたリピーター獲得を目標に。湯本エリアでは、これまでの温泉街再生に向けた取組を振り返り、今後は事業承継や新規事業の創出に向けて、不動産の管理・活用が進められています。

最後に、長門市の観光振興の取組として、福岡県をターゲットにしたプロモーション活動、直行バスやレンタカーといった交通アクセスの改善、外国へのプロモーション強化や受入体制の整備といったインバウンド対策などが紹介されました。

観光客を歓迎する声が増加！ 地域に与える影響とは

後半は、住民アンケートの結果をもとに、各エリアでの実情の共有や、意見交換を行いました。

長門市では、観光客の来訪を歓迎すると答えた割合が2022年から2023年にかけて増加。関係人口や交流人口増加による経済効果だけでなく、観光産業はまちのにぎわい創出、文化財や自然資源の保存継承にもつながると期待されています。

観光客が地域の方に「良いところですね」「お野菜がおいしいですね」などと話される場面もあり、そうした生の声も励みになっています。

「おもてなし」の満足度が リピーターにつながる

長門市でのおもてなしに「大変満足」と回答した方の9割が「絶対また訪れたい」と回答。このおもてなしを向上させるには、地元の人々が長門市の良さを知り、自信を持つことが観光客に伝えることが重要です。また、観光事業者だけでなく、地域住民においても、自分のまちを好きになり、おもてなしの意識を持つことが求められています。

地域住民と観光業界の架け橋に 住民理解と参加を進めるには

観光地域づくりを進める上では、行政や観光事業者だけでなく、観光業界に携わっていない住民にも目を向けることが大切です。そのためには、日常的な交流を通じて地域住民と観光業界の架け橋となること、地域の伝統や文化を尊重しながら新しい取組を行うことが求められます。

例えば、仙崎地区では小さなイベントを積み重ねていく中で、地元の花屋さんで若い世代が好むミモザなどの花を売る企画を立てた事例がありました。はじめは受け身だった事業者も、今では一緒にアイデアを出して取り組んでいくようになったといえます。こうした仲間づくりをしながら、少しずつ機運を高めていくことが大事だと提案がありました。

ほかにも、全国に目を向けると、こうした魅力ある地域を良くしたい、何か力になりたいという人はたくさんいるとされ、新たな地域の担い手を受け入れる環境づくりも必要だといった意見も挙げられました。

今後当協会では、収集したデータを活用しながら、地域の事業者と手を取り合い、観光客と地域住民の双方に配慮した、持続可能な観光地のマネジメントを進めていきます。

2024年度 協会事務局職員紹介

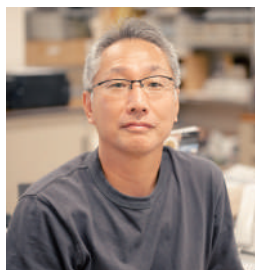
昨年度から今年度にかけて新たに4名の職員を迎え、現在は10名で業務を行っています。新たな専務理事・事務局長を迎えた体制のもと、職員一同気持ちも新たに長門の観光振興に励みます！

業務内容

- ・DMOとしての活動
(データ収集／分析をいかした観光振興活動)
- ・「ナガトリップ」など着地型旅行コンテンツの企画
- ・「ななび」や各種SNSを活用した情報発信
- ・窓口案内やレンタサイクル・レンタカーの貸し出し
- ・体験型教育旅行の受入 ほか



専務理事
武内 源太



事務局長
市川 裕之



事務局次長
小林 容子



事務局次長補佐
畑村 陽子



事務局職員
青野 暁美



事務局職員
村尾 悦郎



事務局準職員
荒川 茂登子



事務局準職員
林 大樹



事務局準職員
下川 智恵



事務局準職員
本山 大智

編集後記



△青海島・西園寺の青蓮。
例年8月上旬まで変わる変わる花が咲きます(え)

最新情報は「ななび」から
<https://nanavi.jp>

ながと観光なび
ななび



会報紙 Nanavi Paper vol.20 発行日 2024年8月1日
発行 一般社団法人長門市観光コンベンション協会
〒759-4106 長門市仙崎 4297-1
道の駅センザキッチン 観光案内所「YUKUTE」内
TEL 0837-27-0074 FAX 0837-27-0079 E-mail info@nanavi.jp